

平成28年度ブラッシュアップ版

地域と共に創るとっとり人権教育事業で
開発した人権教育プログラム綴
(社会教育編)



参加型学習で使用する「きもちサイコロ」

平成30年12月

鳥取県教育委員会

も く じ

- 【7】 テーマ「人間関係」
タイトル「タイトルを決めるのはあなた」 P 1
～子どもが電子メディア機器（携帯電話・スマートフォン等）と上手に関わるために～
- 【8】 テーマ「仲間づくり」
タイトル「悩める子どもにできること～ワールドカフェを通して～」 P 5
- 【9】 テーマ「人間関係」
タイトル「子どもを守るためにできることは？（被害者の立場を通して）」 P 1 2
～わが子がいじめられています・・・～
- 【10】 テーマ「対話、自尊感情、子どもの最善の利益」
タイトル「この年頃にありがちなこと～子育て（親育ち）で大切にしたいこと～」 P 1 8
- 【11】 テーマ「居場所づくり」
タイトル「ふつう、目玉焼きには『しょうゆ』でしょう!!」 P 2 2
- 【12】 テーマ「自尊感情」
タイトル「子どもの気持ちに向き合う上で大切にしたいこと」 P 2 7
～いじめをしない子どもを育てる『2つの自信』～

【 7 】

テーマ「人間関係」

タイトル「タイトルを決めるのはあなた」

～子どもが電子メディア機器（携帯電話・スマートフォン等）と上手に関わるために～

【学習のポイント】

○新しいコミュニケーションツールである携帯電話・スマートフォン等、電子メディア機器に子どもが上手に関わっていくことについて意見交流することをおして、子どもとの関わり方を見つめ直す機会にするとともに、新しいコミュニケーションツールへの関わり方について子どもと共に学ぼうとする態度を養う。

【キーワード】共に学ぶ

【すすめ方（90分）】

流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	10	1 本研修会のねらいや進め方を理解する。 ・研修の目的、流れ ・話合いのルールの確認（参加・守秘・尊重） ・自己紹介（名前・子どもの学年・お題等）	■本研修会のねらいや進め方について説明します。 ※参加型で研修を進めることを伝える。 お題の例：「最近気になるニュース」	◆話合いのルール「参加・守秘・尊重」をおさえる。 ◆事前に4人のグループの座席にしておく。 ◆アンケートを「お題」としてもよい。
展開1	5 5	2 子どもの電子メディア機器への関わりについて話し合う。 (1) 児童生徒アンケート結果をもとに話し合う。 (2) 子どもが電子メディア機器に関わる時のメリット・デメリットについて考える。	■児童生徒アンケート結果を踏まえ、普段から子どもの電子メディア機器の使い方について思っていること、感じていることを話し合ってください。 ■子どもが電子メディア機器に関わる時、「いいな」「便利だな」（メリット）と思うことと、「いやだ」「不安だな」（デメリット）と思うことを付箋に書き出しましょう。	◆事前にアンケートが実施できない場合、他のアンケート結果や鳥取県・全国のデータを活用してもよい。 ◆メリット、デメリットどちらも考えるよう促す。

	10	<p>①個人 メリット…付箋（青） デメリット…付箋（赤）</p> <p>②グループ</p>	<p>■個人で考えたメリット・デメリットについてグループで話し合います。書いた付箋を模造紙に出しながら考えたことを紹介しましょう。</p> <p>■出た付箋をグループごとに分けキーワードをつけましょう。</p>	<p>◆合意形成しながらメリット・デメリットを整理してもらおう。特に、デメリットに対する思いを話し合ってもらい、展開2につなげる。</p>
展開2	3 5 30 5 10	<p>3 子どもが電子メディア機器に上手に関わる上での意見を交流する。</p> <p>(1) 「考えてもらいたいお題」をグループで考える。</p> <p>(2) グループで考えた「考えてもらいたいお題」を他のグループに考えてもらう。 (質問タイム) ・【交流(8分)+報告(2分)]×3回</p> <p>(3) 出た意見についてグループで意見交流する。</p> <p>(4) ギャラリーウォークで他のグループの質問やそれに対する回答を見てまわる。</p>	<p>■メリット・デメリットを踏まえ、子どもが電子メディア機器に上手に関わる上で、よりよい問題解決に向けて皆さん（他のグループ）に考えてもらいたいお題をグループで考えましょう。また、お題ができたグループは模造紙の中心に書き、円で囲みましょう。</p> <p>■グループで考えたお題を他のグループの人に考えてもらいます。グループの代表者は模造紙を持って他のグループに移動し、お題を考えてもらいましょう。(交流)</p> <p>■時間になりましたので、代表者はもとのグループに戻り、出た意見をグループの人に報告しましょう。(報告)</p> <p>■質問タイムを終わります。出た意見をもとにグループで意見を交流しましょう。</p> <p>■他のグループの様子を見てまわりましょう。まわりながら「この意見はよい」と思うものがあればそこに「いいね」シールを貼りましょう。</p>	<p>◆展開1の課題を展開2に生かすようにする。</p> <p>◆質問例を提示し、思考を促す。</p> <p>◆保護者自身の携帯電話・スマートフォンとの関わりも考えてもらいたい。</p> <p>◆移動の仕方を指示し、移動の重複がないようにする。</p> <p>◆グループ代表者は毎回交代するようにする。</p> <p>◆模造紙に意見交流したことを記述してもよい。</p> <p>◆準備物「いいね」シール。</p> <p>◆発表してもらった場合、発表者をあらかじめ決めておく方がよい。</p>

まとめ	5	4 まとめ ◎いじめの未然防止 ・人間関係づくり ・共に学ぶ ・連携	※グループで出た意見や本時の活動と、いじめの未然防止や人権教育とのかかわりを話してまとめとする。	◆意見を1～2つ程度紹介する。
	5	5 ふりかえりシートの記入		

【参考資料】模造紙イメージ

子どもが電子メディア機器と上手に関わるために

メリットは… (いいな・便利だな) デメリットは… (いやだ・不安だな)

電話・LINE

- どこにいるか分かる
- 電話をかけたい時にかけられる
- 迷惑メール

スマホ・タブレット

- 知りたい情報がすぐに見つかる
- いろんなサイトにアクセスする
- 名前や通っている学校など他の人に知られる (個人情報)

写真

- 写真を勝手にとられる
- 自分が写っている写真を勝手にブログなどに投稿される
- 友だちと共通の話題ができる

ゲーム

- 親子の会話が増える
- 親子で楽しめる
- 使う時間を守らず親子げんかになる
- ゲームのやり過ぎで勉強しない

怪しいサイトにアクセスさせないため

保護者はどのようにすればいいでしょうか

【学習資料】インターネットの利用に関する児童生徒アンケート



インターネットの利用に関するアンケート

(対象：小学校中学年～中学校)

1 あなたが使っている電子メディア機器はどれですか。(あてはまるものすべて)

- ①携帯電話 ②スマートフォン ③パソコン ④タブレット ⑤音楽プレイヤー
⑥携帯型ゲーム機 ⑦据え置き型ゲーム機



2 あなたは電子メディア機器をどのくらい利用していますか。(あてはまるもの1つ)

- ①毎日(1日あたり約 時間) ②週4～6日(1日あたり約 時間)
③週2～3日(1日あたり約 時間) ④週1日以内(1日あたり約 時間)
⑤ほとんど利用しない



3 あなたは電子メディア機器をどんなことに使っていますか。(あてはまるものすべて)

- ①家族との連絡 ②友だちとの連絡 ③ゲームをする ④写真・動画を見る ⑤写真・動画をとる
⑥写真・動画を投稿する ⑦音楽をきく ⑧分からないこと、知りたいことを調べる
⑨買い物をする ⑩その他()

4 あなたは電子メディア機器を使う場合、家族とルールを決めていますか。(あてはまるもの1つ)

- ①ルールを決め、しっかり守っている ②ルールを決めているが、あまり守っていない
③ルールは決めていない



5 あなたが電子メディア機器を使っていて困ったこと、いやなことはありますか。(あてはまるものすべて)

- ①友だちとのトラブル ②迷惑メール ③悪口を書かれた ④勝手に写真をとられた
⑤知らない人から連絡がきた ⑥夜遅くまで使い、寝不足になった ⑦手放せない
⑧その他() ⑨困ったことはない



6 もし、あなたが電子メディア機器を使っていて困ったことやいやなことがあったとき、どうだと思いますか。(あてはまるものすべて)

- ①家族に相談 ②学校に相談 ③友だちに相談 ④警察に相談 ⑤その他の人()に相談
⑥誰にも相談しない ⑦その他() ⑧わからない

【 8 】

テーマ「仲間づくり」

タイトル 「悩める子どもにできること～ワールドカフェを通して～」

【学習資料】

<読み物資料>

〇〇中◇年◇組では、最近、友達の陰口を言いあうことが目立つようになり、授業中も騒がしく、落ち着かないことが多くなっていました。

このクラスの男子 A、B、C、D は、もともと休憩時間には、よく一緒に遊ぶグループでした。しかし、ある日突然 A は、B、C、D から、からかわれるようになりました。やがて、一方的にたたかれたり、けられたりするようになりました。

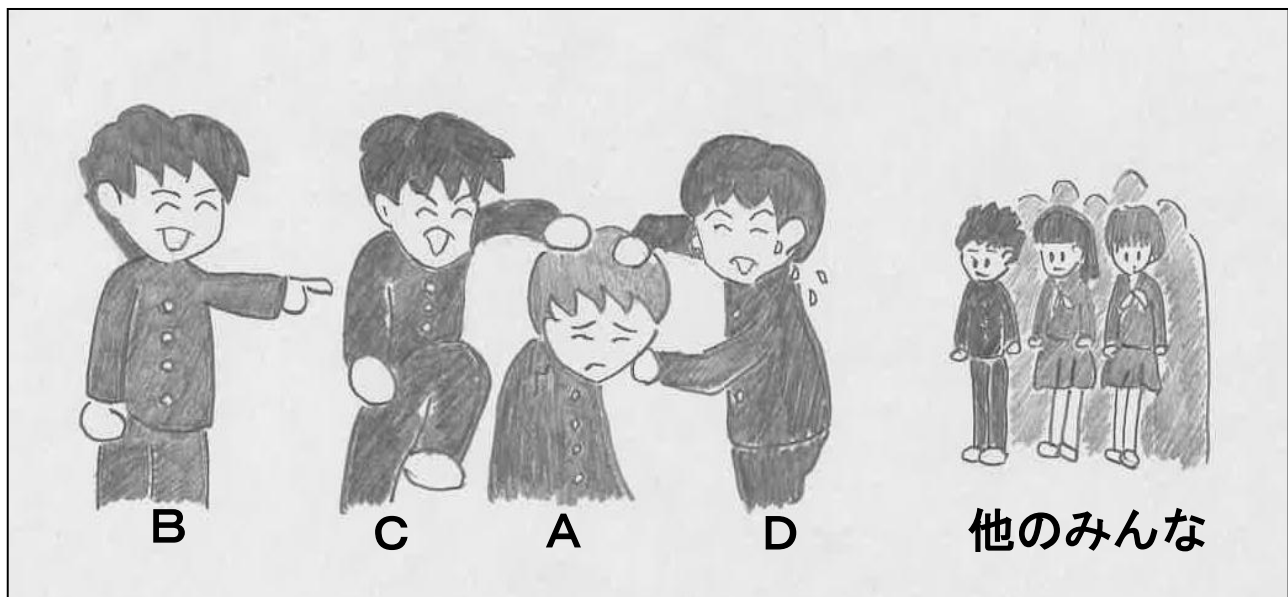
A をいじめる中心は B でしたが、C、D も A をいじめるようになりました。C はただふざけているだけのようですが、D はしかたなくやっているようです。

先生がいないときにいじめが繰り返されるので、まだ先生は、このことに気付いていません。

A は、はじめのころはからかわれても笑顔でごまかしていましたが、今は下を向き、じっと耐えています。

クラスの他のみんなは、A がいじめられている様子を心配そうに見ていたり、「またふざけてる」「いつものこと」となるべく関わらないようにしたりしているようです。

<場面イラスト>



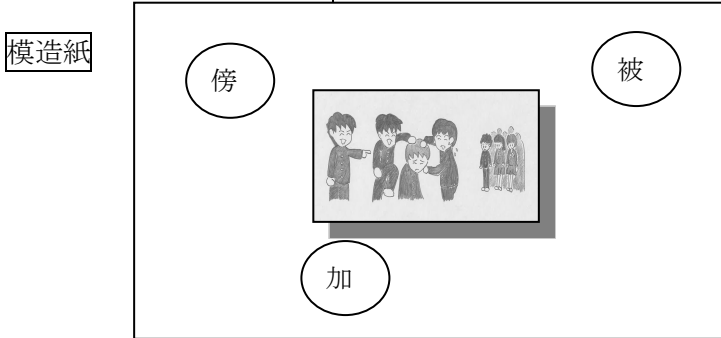
【学習のポイント】

- 「被害者」「加害者」「傍観者」それぞれの立場について、問題解決にむけた保護者や大人としての関わり方を話し合うことを通して、いじめをしない子どもの育て方について理解を深める。
- 保護者が気づきや意見を交流し合い、自分の子育てや子どもとの関わりを見つめ直しながらかつながら合うことが、子どもたちの仲間づくりや人間関係づくりにつながっていくことへの理解を深める。

【キーワード】

いじめのない集団、子どもたちの仲間づくりのための大人の関わり、大人の仲間づくり

【すすめ方（90分）】

流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	6	1 本研修会のねらいや進め方の説明を確認する。 ・話し合いのルールについて確認する。 2 アイスブレイクをする。 ・グループごとに自己紹介をする。	■本研修会のねらいや進め方について説明する。 ・真面目な雑談 ・「参加・尊重・守秘」を確認 ■自己紹介をしましょう。 ・名前 ・子どもの学年	◆事前にグループ編成を行っておくと良い。
展開1	5	3 学習のながれを確かめ学習の見通しをもつ。	■【学習資料】の問題点を考えながら、それを解決するため保護者や大人としての関わり方を考えます。	◆<場面イラスト>を貼った模造紙を各グループに配布する。
展開2	20	4 【学習資料】について考える。 ①<読み物資料>を読み、この場面における「被害者」「加害者」「傍観者」を確かめる。 <div style="text-align: center;">  </div>	■<読み物資料>を読みます。 ■この場面での「被害者」「加害者」「傍観者」は誰か考えましょう。	◆ファシリテーターが読む。 ◆問題となる場面での「被害者」「加害者」「傍観者」の立場を確認し、模造紙のイラストに記入する。 ◆模造紙の説明の際には、例示用を黒板に貼る。
		②「被害者」「加害者」「傍観者」それぞれの気持ちを考える。(個人→グループ)	■【学習資料】の「被害者」「加害者」「傍観者」それぞれの立場の気持ちを考えて付箋に書きましょう。 ■付箋に書いた意見を紹介し合いながら模造紙に貼り、話し合います。	◆3種類の付箋にそれぞれの気持ちを書く。 ◆加害者はB、C、Dそれぞれに分けて考えてもよい。 ◆資料をもとにして考えた意見、体験を想起

展開5	1 2	7 ワールドカフェ（第3ラウンド） をする。 ○第2ラウンドと同様の活動をする。	<p>■第1ラウンドとは別の人がテーブルホストとして残りましょう。</p> <p>■第2ラウンドと同様に話し合い、模造紙に追加案を書き込んでいきましょう。</p>	
展開6	1 5	8 ワールドカフェ（第4ラウンド） をする。 ①テーブルホストが、第3ラウンドまでに出た意見を簡単に紹介する。 ②①をもとに、話し合いをふりかえる。	<p>■テーブルホストは、第3ラウンドまでに出た意見を簡単にまとめましょう。</p> <p>■模造紙に書き込んである内容をもとに、気づいたことや考えたことをふりかえり、意見交換しましょう。</p>	◆グループ内で意見交換を行い、全体での発表は行わない。
まとめ	5	9 ファシリテーターがまとめをする。 10 アンケートを記入する。	<p>■子どもは、「被害者」「加害者」「傍観者」のどの立場にもなる可能性があります。大切なのは、「いじめない子ども」を増やすよう、三者の立場を乗り越えて、いじめのないよりよい仲間づくりをすることです。</p> <p>■資料も参考にしながら、今日のように話し合い、つながりあいながら、保護者や大人としてできることの幅を広げていくことを大切にしたいものです。</p> <p>■学習のポイントをくり返しおさえる。</p>	<p>◆参考資料として資料1、資料2を配布する。</p> <p>◆時間、参加者の反応を見ながら資料の紹介をする。</p> <p>◆テーブルホスト等が、自分の感想を言ってもよい。</p>

[参考資料]

資料1：「友達」（全国中学生人権作文コンテスト鳥取県大会最優秀賞作品）

資料2：「大人のいじめ対応姿勢5カ条」（鳴門教育大学大学院 教授 阪根健二氏 監修）

資料3：「平成29年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

（鳥取県教育委員会事務局 いじめ・不登校総合対策センター）

「友達」

八頭町立八頭中学校 一年

大呂 夏希

私が学校に着くと、きまって友達が話しかけてくることがある。クラスメートの悪口だ。

そのときの私は、友達と一緒にになってクラスメートの悪口・陰口を言うことが、習慣になっていた。友達を非難することで、自分はその子より上なんだ、これで私も仲間はずれにされることはない、と自分の中で安心を得ていた。愛想を言っては相づちを打つ。これがいつも私のすることだった。そうして、いつも悪口を言う側にいると、悪口を言っている側の怖さを知る。だからこそ、いつ仲間はずれされるのか、いつ自分の悪口を言われるのか、びくびくしながらも、その気持ちを表には出さず毎日生活していた。

ある日、クラスの女子が集まって話し合いが行われた。内容は、悪口・陰口について。話し合いなど、よくあることだったので、私は気にも留めず参加した。

「悪口や陰口を言っていないか？」

もちろん、「言っています」など素直に言う人なんていない。かといって、「あの人が言っていました」なんて告げれば後で何をされるかわからない。だから、みんな黙る。そうしているうちに刻々と時間は過ぎていった。

帰宅し家族と夕食をとる際、私はちょっとした話題提供にと軽い気持ちで、話し合いがあったことを伝えてみた。私も陰で言っていること、女子の中で上下関係があること、ありのままを話した。すると突然、父がはしを置き、真っすぐ私を向いて言った。

「本当にこのままで良いのか？」

今考えると、この言葉がなければ今の自分はいなかったかもしれない。私は、父のこの言葉で、初めて自分をみつめなおすことが出来た。本当にこれで良いのかな、このままでも自分は胸を張って生きていけるのかな。悩みに悩んだあげく一つの答えをしばり出した。

自分を変えよう。

その日から、私は悪口や陰口を言う自分を変えるように努めた。そのため、一緒にになって悪口を言っていた友達と少しの間、距離を置くことにした。すると、何でもないように隣にいてくれる友達がいる。私は今まで、陰で、その子の悪口を散々言っていたというのに…。そのうえ、「何かあったの？」とか「大丈夫？」とか心配までしてくれる。友達への感謝がどつとあふれ出てくるとともに、自分が恥ずかしく情けなく思えてくる。こんな私と一緒にいてくれてありがとう。今まで本当にごめんなさい。ただ、ただ、それだけだった。

『一緒に陰で悪口を言う仲間』ではなく、『自分が悲しみ苦しんでいるときでも隣にいてくれる人』だと、私はこの経験から「友達」に対しての思いが変わった。また、私が友達に助けられたように、私も友達に何か起こったときすぐさま自分の手を差し伸べられるような存在になりたい、そう思えるようになった。中学校が統合し、大人数での生活となった今、次は私がみんなの「友達」になる。

(平成27年度「全国中学生人権作文コンテスト」鳥取県大会 最優秀賞 受賞)



大人のいじめ対応姿勢5カ条

(1) いじめられっ子に非なし

<どんな場合でもいじめられっ子に寄り添う>

(2) 周辺こそがいじめの元凶

<いじめる子よりも周りの子への働きかけが大切>

(3) 昨日と違うちょっとした様子こそ発見の決め手

<深刻な時ほど子どもは訴えないので、それに気づく感受性が必要>

(4) いじめの輪から新たな輪へ

<既存の集団と異なる新しい集団や世界を提供する>

(5) いじめっ子だって泣いている

<いじめる子の抱えるストレスにも目を向けて>

(鳴門教育大学大学院 教授 阪根健二 氏 監修)

平成29年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の公表について

平成30年10月31日

いじめ・不登校総合対策センター

平成29年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果が公表されました。

いじめに関しては、小・中学校で昨年度より認知件数が増加していますが、千人あたりの認知件数は全国平均を下回っています。

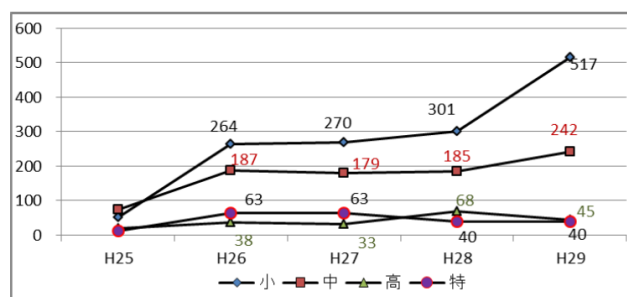
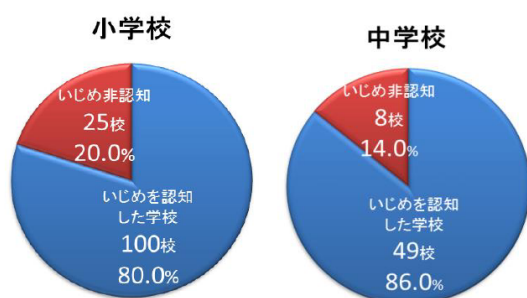
不登校に関しては、鳥取県は平成28年度と比べ、小学校は14人増加（出現率は0.05%上昇）、中学校は3人増加（出現率は0.08%上昇）、高校は23人増加（出現率は0.17%上昇）しています。

暴力行為に関しては、小・中学校とも前年度を上回り、平成25年度以降で過去最高の数値となっています。また、小・中学校ともに、生徒間暴力の件数が増えています。

1 いじめの状況について

(1) いじめの認知件数の推移（国公立）（H25-H29）

いじめ		H25	H26	H27	H28	H29
鳥取県	小	52	264	270	301	517
	中	73	187	179	185	242
	高	20	38	33	68	45
	特	12	63	63	40	40
	計	157	552	545	594	844
	認知件数/千人	2.4	8.7	8.7	9.6	13.8
全国	認知件数/千人	13.4	13.7	16.5	23.8	30.9

(2) いじめを認知した学校の割合
(公立のみの県独自調査より)

(3) いじめに関する分析と対応

- ・他県と比較すると1,000人あたりのいじめの認知件数は低い状況である。また、いじめ認知の学校間格差もある。引き続き職員研修や学校訪問等での説明により、いじめの積極的な認知を促すとともに、いじめの早期発見につながる記名または無記名アンケートの効果的な活用等を進めていく。
- ・いじめ認知ゼロの学校を抽出訪問する。
- ・いじめ問題対策連絡協議会で、「SNSによるいじめの通報システムについて」と「いじめ対応マニュアルについて」の検討を行い、施策に反映させる。

【9】

テーマ「人間関係」

タイトル 「子どもを守るためにできることは？」（被害者の立場を通して）
～わが子がいじめられています・・・～

【学習資料】事例シート

「何とかしなきゃ」

ル：ある日、泥だらけのくつやズボン、いつもより遅く、うつむいて帰宅した小学3年生の息子Aの様子を見て、動悸がうって思わずたずねました。



母：「遅かったなあ、どうしたんそのくつやズボンの泥は？」

A：「なんでもないわ、田んぼで遊んどってこけただけ。」

母：「なんでもないことないが、今日だけでなく、近ごろよう服よごして帰ってくるが。」

A：「ほっといて、おかあさんには関係ないわ。」

母：「関係ないことないわ、いじわるされとるんじゃないか？何だか心配だが。」

ル：泥だらけのくつを玄関に脱ぎちらし、Aは二階の自室に駆け上がって行きました。夜遅く帰宅した夫に、夕食を準備しながら相談しました。

母：「おとうさん、少し前から気になってたんだけど、どうやらAがいじめられとるようだよ。近ごろ、帰りが遅いし、くつやズボンが汚れていることが多いし、おかしいと思ってたんだけど・・・。ほんとに心配だよ。」

父：「子どもの服が汚れているぐらいで心配すんな。子どもの勲章みたいなものだ。ふざけ合ってるだけじゃないんか？」

母：「だって元気もないし、目をそらして話もせんし、絶対いじめられとるんだよ。」

父：「Aはおとなしい子だけ、ようケンカもせんしなあ。おかあさんは誰にいじめられとるんか知っとるんか？Aに話を聞いたんか？」

母：「聞いたけど、Aは『おかあさんには関係ないわ。』って話してくれんに。」



ル：翌日の土曜日、夫は早朝から出かけてしまいましたが、遅く起きてきたBに昨日のことを問いただしてみました。

母：「昨日の夜、おとうさんにも話をしたけど、心配しとったで、何かあったんだったら話してみないな、おかあさんも心配で寝られんかったで。」

A：「おかあさんには関係ないって言ったが・・・。誰かに言ったらまた何かされるわ。」

母：「ほら、やっぱり何かされとるんじゃないの。可愛い我が子のことを心配せん親がどこにおる。ちゃんと話さないな。」

A：「しまった・・・おかあさん黙っといてな。昨日はな、学校から帰ってくる時、C君とD君とE君に背中をドンドンって押されて、田んぼに落とされたんだ。他の時も、キックボクシングの試合とかいってパンチやキックされたこともあるけど、3対1だし、かなわんが。」

母：「他にだれも見とらんかったんか？」

A：「BちゃんとFちゃんが見とって、『何してるの!』って言ってくれたけど、C君が『はあ？遊んでるだけだしー。』と言ってた。僕は何にも言わなかったけど。」

母：「先生は知ってるの？」

A：「わからん。だって、いつも先生がいない時だし。」

母：「先生に言ってみたら。」

A：「先生に言ったら、告げ口したとまた何かされるから、言うのいやだ。」



ル：その夜、Aが告白したことを夫に話した後、夫とAの部屋へ行き、寝顔を見ながら二人でつぶやきました。

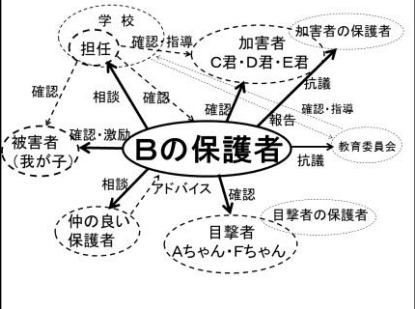
母&父：「何とかしなきゃ」



【学習のポイント】

○いじめの初期段階への気づきや対応を、保護者として主体的に考え、いじめ抑止への行動につなげようとする意欲を高めるとともに、地域で話し合っ問題解決する「いじめ抑止のネットワーク」を構築していくには、どのような人間関係・信頼関係づくりをしていけばよいのかを考える。

流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	15 (5)	1 本研修会のねらいや進め方の説明をする。 ①ファシリテーター自己紹介 ②研修の目的、本日の流れの説明 ③話合いのルールの確認 ④グループ内で簡単に自己紹介	■本研修会のねらいや進め方について説明します。 ■ルールの参加・尊重・守秘について説明します。	◆4人のグループ型の座席にしておく。 ◆ホワイトボードなどに話合いのルールを書いて（貼って）おく。
	(10)	2 アイスブレイクをする。「ペア・コミュニケーション」 ①ルールを確認する。 ②じゃんけんで話す役／聴く役の順番を決める。（役割は後で交代、お題は変える） ③お題に沿って順番に、話す／聴く。（1分×2人＝2分） お題1「最近、気になるニュース」 お題2「最近、うれしかったこと」	■「話す役」は1分間「お題1」について話します。 ■「聴く役」は相手の話をしっかり聴いてください。 ■時間はファシリテーターが計りますので、時間の途中で勝手に役割を交代しないでください。 ■後で交代してもらいますが、お題は変更します。	
展開1	30 (5)	3 「何とかしなきゃ」を使って話合いをする。 ①事例シート「何とかしなきゃ」をファシリテーターが読み上げる。		◆事例シートは事前に配布しておく。 ◆役割を決めて朗読劇をすることもできる。

	<p>(5) ②各自で、事例に登場するBの保護者のその後の行動を、保護者としてどう行動するべきか考える。思いつくいくつかの行動を、付箋に書きとめる。</p> <p>(20) ③グループで、各自で書いた付箋をまとめ、「いじめ抑止ネットワーク」イメージ図を作成する。 《イメージ図例》</p>		<p>■「何とかしなきゃ」と言っていたAの保護者はどんな行動をとるでしょうか？各自で考えましょう。 あなたが保護者として思いつくいくつかの行動を付箋に書きましょう。 一枚の付箋に一つの行動を書きましょう。</p> <p>■模造紙の中心にAの保護者と描き、周りに各自の行動を書いた付箋を貼りましょう。</p> <p>■グループで、各自の行動を同じ項目ごとにまとめましょう。</p> <p>■どうつながり、どう広がって行けばいじめが解決していくのか話し合しましょう。</p> <p>■話し合った内容を模造紙の空いている場所書き込みましょう。</p>	<p>◆グループ用に事前配布 ・模造紙1枚 ・付箋適宜 ・マジック1本</p> <p>◆参加者が②の作業中に、「いじめ抑止ネットワーク」イメージ図の概要を簡潔に描く。</p>
<p>展開2</p>	<p>15</p>	<p>4 ギャラリーウォークをする。</p> <p>他のグループの「いじめ抑止ネットワーク」イメージ図を見て情報収集をしながら、「なるほど」と思ったり「共感」したりする記述にシールを貼る。</p>	<p>■他のグループの話し合った内容でよいと思う意見にシールを貼りましょう。</p>	<p>◆各自3枚のシール</p>
<p>展開3</p>	<p>10</p>	<p>5 元のグループで、もう一度、ネットワークイメージについて話し合う。</p> <p>いじめの抑止につなげるにはどんなネットワークを構築する必要があるのか話し合う。</p>	<p>■どんな「いじめ抑止ネットワーク」であれば、いじめの抑止につながるのか話し合しましょう。</p>	<p>◆各グループの「いじめ抑止ネットワーク」イメージ図を完成させる。</p>

<p>まとめ</p>	<p>10 (7)</p>	<p>6 ファシリテーターがまとめる。</p>	<p>■いじめは、身近な人間関係の中で起こることが多く、誰もが、いじめに注意深い関心を持つことが大切です。</p> <p>皆さんのかけがえのない子どもたちが発する小さなサインを見逃さないことが「いじめをエスカレートさせない」抑止の行動の始まりとなるのです。</p> <p>■いじめを抑止するためには、家庭、学校、地域での良好な人間関係、信頼関係が必要です。</p> <p>■大人（保護者・教員）も子どもも、良好な人間関係や信頼関係を築いていくには、話し合っ問題て問題を解決するという姿勢を示し、問題に取り組んでいかなければなりません。</p> <p>そのためには、自分の考えを相手にわかりやすく伝えたり、相手の話をしっかり聴きよく理解することが重要です。</p> <p>■いじめは、個人同士の問題ではなく、集団、社会の問題です。個人と個人の問題として片付けるのではなく、クラスや学校、地域の問題として捉え、より良い人間関係のネットワークが地域に存在することが、いじめの抑止や解決に立ち向かう行動力となるのです。</p>	<p>◆「家庭での『いじめサイン』チェックシート」を配布する。（持ち帰ってチェック）</p>
	<p>(3)</p>	<p>8 ふりかえりシートに記入する。</p>	<p>■最後に、本日の学習を振り返っていただき、終わりしたいと思います。</p>	

【参考資料】



家庭での『いじめサイン』チェックシート

1	朝、布団からなかなか出ようとしなない。	
2	朝、腹痛や頭痛など身体の具合が悪いと訴える。	
3	トイレからなかなか出てこない。	
4	いつもと違って朝食を食べようとしなない。	
5	学校へ行きたがらなない。	
6	親の学校への出入りを嫌う。	
7	ひとりで登校したり、遠回りして帰ってきたりするようになる。	
8	イライラしたり、おどおどしたりして落ち着きがなくなる。	
9	人前で着替えをするのを嫌がる。	
10	勉強に集中できなくなり、成績が下がる。	
11	部屋に閉じこもることが多くなる。	
12	深い大きなため息をつくことが多い。	
13	親と視線を合わせようとしなない。	
14	言葉遣いが乱暴になる。	
15	学校の様子を聞いても言いたがらなない。	
16	友だちのことを聞かれると怒りっぽくなる。	
17	すぐに謝るようになる。	
18	無理に明るく振舞おうとする。	
19	友だちや学級の不平・不満を口にするようになる。	
20	外に出たがらなない。	
21	電話に敏感になる。	
22	友だちからの電話にていねいな口調で応答する。	
23	衣服が汚れて帰ることが多くなる。	
24	擦り傷などよくケガをして帰るようになる。	
25	寝付きが悪かったり、眠れなかったりする日が続く。	
26	学用品、所持品や教科書を紛失したり、落書きされたり、壊されたりする。	
27	お金の使い方が荒くなる。	
28	「転校したい。」とか「学校やめたい。」と言う。	
29	家庭から物品やお金を持ち出したりする。	
30	親しい友だちが家に来なくなり、見かけない子がよく訪ねてくるようになる。	



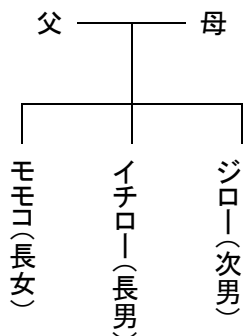
【10】

テーマ「対話、自尊感情、子どもの最善の利益」

タイトル「この年頃にありがちなこと ～ 子育て（親育ち）で大切にしたいこと ～」

【学習資料】

＜家族関係図：A3版に拡大したものを掲示する＞



＜場面カード：A3版に拡大したものを模造紙の中央に貼っておく＞

【場面1】お散歩

ある日曜日の夕方、お父さんはイチロー（当時小1）と手をつないで散歩していました。

向こうから来る50代ぐらいの母親らしき女性と、そのお子さんらしき20代ぐらいの大柄な男性の2人連れとすれ違いました。

男性は何かの障がいがあるのか、女性に手を引いてもらいながら、少しぎこちない感じの歩き方をしているように見受けられました。

それに興味を引かれたのか、イチローが男性を指差して、2人連れにも聞こえそうな声でお父さんに聞いてきました。

「変なの！ 大人のくせに、何で手をつないでいるの？」

【場面2】イライラ

ある日、お母さんはイチロー（当手中2）とスーパーで買い物をしていました。それを見かけた同級生の女子が、次の日学校でイチローに言いました。

「あんた、マザコンか！」

その日からイチローはお母さんを無視し始め、お母さんが何を言っても返ってくる言葉は「ウザイ」の一言になりました。

そのうちイチローのイライラはつのも、ある日、帰ってくるなり、お母さんとジロー（当時小6）の目の前で台所の壁を「バン」と蹴りました。

【場面3】ロゲンカ

ある日の夕方、お母さんは台所で夕食の準備をしていました。リビングでは、モモコ（当手中2）が宿題をし、ジロー（当時小4）がゲームに熱中していました。

お母さんはモモコにお手伝いを頼みました。早く宿題を仕上げたいモモコは、ジローにお手伝いをするよう言いましたが、ジローは全然聞きません。モモコはジローにきつく言いました。

モモコ：わたし今勉強中なの！ ジロー、あんた遊んでるくらいならお手伝いしなさいよ！

ジロー：やーだね！ お母さんはお姉ちゃんに頼んだんだよ

モモコ：あんたは遊んでいるだけでしょ？ わたしは勉強しているの！！

ジロー：うるせー！ バカ！！ お姉ちゃんなんか死んじゃえ！！

【場面4】お買い物

モモコ（当時小4）の誕生日、お父さんがデパートにケーキを買いに行こうとすると、モモコとジロー（当時年長）が一緒に行きたいと言い出しました。お父さんは「ケーキの他には何も買わないって約束できるなら一緒に行こう」と言いました。

いざデパートに着くとジローは最新のゲームソフトを見つけ、どうしても欲しくなり、お父さんにねだり始めました。

ジロー：僕ケーキ食べないからあのゲーム買って！

父：ケーキの他には何も買わない約束だったよね

ジロー：いやだあ！ ゲームが欲しい…

ジローは通路に寝そべり大声で泣き始めました。周りのお客さんは迷惑顔です。お父さんとモモコは、ジローから距離を置いて見ていましたが、しばらくしてモモコがそっとお父さんに話しかけました。

モモコ：みんなが見てて恥ずかしいジローにゲームを買ってあげて

【場面5】末っ子

ある夜更けのお母さんとお父さんの会話です。

母：ジロー（当時小4）の部屋があんまり乱雑だから言ってやったのよ「お姉ちゃん（モモコ：当時中2）やお兄ちゃん（イチロー：当時小6）は何も言われなくても片付けるのに何であなたはできないの?!」って

父：でジローは何て言ったの？

母：「今、片付けようと思っていたのに、そんな言われ方したらヤル気がなくなったし！」ってまったくもう見え見えのウソついちゃって…末っ子が甘えん坊になるって本当ね

父：いちいち比べるからジローも腹を立てたんじゃないの？

母：何よそれ！ じゃあ、あなたならどう言うのよ？

【場面6】お知らせ

ある日、お母さんはモモコ（当時中3）が通う中学校の先生から、懇談会のお知らせの返事が届いていないという電話を受けました。懇談会のことを全く知らなかったお母さんはあわてました。すぐに学校からのお知らせを確認したいお母さんは、モモコの部屋を探してみることにしました。その日の夕方、帰ってきたモモコに学校からのお知らせを見せながら…

母：どうして懇談会のお知らせを見せなかったの!?

モモコ：勝手に探したの？ サイテー！ 私がいない時に勝手に部屋に入らないで！

母：なによその言い方は！ 出さないあなたが悪いんでしょ！

<子どもの権利条約カード（大意）>

「子どもの権利条約」（大意）

第3条 子どものために何かを行うときは、子どもの最善の利益（その子どもにとって最もよいこととは何か）を考えた上で行います。

第5条 父母（保護者）は、その子どもの成長のためにふさわしい指導をする責任と権利があります。

<ふりかえりシート>

今日の学習を通して、子育てをする上で大切にしたいと思ったことを短い文で書きましょう。

【学習のポイント】

○子どもの成長に伴って起こりがちな場面をもとに、課題を整理したり対応を考えたりすることをおして、子どもにとって最もよいこととは何かということについての理解を深める。

【キーワード】

○子どもの自尊感情を育てるために、保護者に必要な人権感覚

【すすめ方（80分）】

流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	5	1 話合いのルールを確認 2 アイスブレイキング (参加者の実態によっては省略してよい)	■「まじめなおしゃべり」という感覚で、肩の力を抜いて参加してください（全体の前で意見発表する場面はありません） ■子どもの好きな食べ物を紹介しながら自己紹介しましょう	◆「参加・尊重・守秘」を掲示しておく ◆各テーブルにグループ名（花の名）の札を置いておく ◆ファシリテーターも自己紹介する
展開1	2	3 学習の見通しを持つ	■いじめをしない子どもを育てることを目標に、ある一家の子どもの成長に伴って起こった場面をいくつか取り上げながらグループで話し合い、子育てをする上で大切にしたいポイントについて考えます	◆家族関係図を描いた模造紙を掲示する
展開2	8	4 自グループ（4～5人程度）の場面を共有し疑問点を出し合う	■①自分たちのグループの場面を確認し、②気になる箇所に線を引き話し合しましょう	◆先行事例を掲示する。
	2	5 みつばちワクワクカフェの進め方を確認	◆ファシリテーターが以下を説明する	
		① みつばち役になる順番を決める ② みつばち役はワークシートを持って他のグループに移動し、場面と気になる箇所を説明し、話合いで出された意見をワークシートの余白に書き込んでもらう ③ みつばち役がグループに戻り、もらった意見を報告する ④ みつばち役を交代し②③を繰り返す ⑤ 終了後、他のグループのワークシートを見てまわり、なるほどと思う意見に「いいねシール」を貼る * 参加者数、時間設定に応じて場面数・セット数をファシリテーターが指示する		
	10	6 みつばちワクワクカフェ第1セット	■みつばち役が持ってきた場面について話し合しましょう（9分） ■グループに戻って報告しましょう（1分）	◆模造紙の中央に場面カードを張ったワークシートを配布する
	10	7 みつばちワクワクカフェ第2セット（9分+1分）		
	9	8 みつばちワクワクカフェ第3セット（8分+1分）		
	9	9 みつばちワクワクカフェ第4セット（8分+1分）		
	8	10 みつばちワクワクカフェ第5セット（7分+1分）		
		・みつばち役を交代しながら繰り返す ・意見の出具合を見ながら時間配分・セット数を調整する（すべての場面を扱わなくてもよい）		
		①話合いで出された意見を書き込んでいく ②話合いが終わったら自グループの名を書き、花びら状に囲む ③最終セットが終わった時に花が完成するようにする		

展開3	2	11 子どもの権利条約の確認	■「子どもの最善の利益」「保護者の責任と権利」を常に意識するようにしたい	■子どもの権利条約カードを配布する
	6	12 ギャラリーウォーク	■他のグループのワークシートを見てまわり、なるほどと思う意見に「いいねシール」を貼りましょう	◆「いいねシール」(ドットシール、付箋等)を配布する
まとめ	7	13 振り返りシートに記入(2分)した後、グループで共有(5分)	■今日の学習を通して子育てをする上で大切にしたいと思ったことを振り返りましょう	◆グループ内で共有することを予告した上で書いてもらう
	2	14 まとめ	◆子どもを鏡として、自分自身を反省的に振り返りながら親育ちしていこうとする姿勢を大切にしたい 等	◆「いいねシール」をたくさん集めた意見の紹介、ファシリテーターの体験談を盛り込むと効果的
			※必要に応じて場面カードのテーマを説明する 場面1：障がいのある人(気まずい一言) 場面2：反抗期(しつけ) 場面3：きょうだいゲンカ(いけない言葉) 場面4：しつけ(世間体) 場面5：きょうだいを比べること(決めつけ) 場面6：プライバシー(子どもの最善の利益)	

<みつばち役の移動の例>

- * 1セット目：時計回りに隣へ移動
- 2セット目：時計回りにひとつ飛ばしで移動
- 3セット目：時計回りにふたつ飛ばしで移動…等

【先行事例】

【プロ野球】

雨がしとつく夕方。今日は米子でプロ野球のある日です。お父さんと観戦に行く約束をしているイチロー(当時小4)はお父さんの帰りを今か今かと待っています。

父：ただいまー

イチロー：お帰りなさいー！ お父さん 早く行こうよ！ 早くう！

父：はいはい ちょっと待っててね しかし空模様が心配だなあ…

イチローとお父さんは駅まで歩いて行きました。駅の改札で、お父さんは駅員さんにプロ野球の試合があるかどうか聞きました。駅員さんは試合が中止になったことをお父さんに伝えました。

駅からの帰り道、ガマンしきれなくなったイチローは、しゃがみこんでシクシク泣き始めました。

問い「お父さんはどうすればよいでしょう」

【11】

テーマ「居場所づくり」

タイトル「ふつう、目玉焼きには、『しょうゆ』でしょう!!」

【学習のポイント】

- ・保護者が多様性を認めていくことで、子どもはイジメに向かいにくくなる。
- ・保護者が安心して活動できることが子どもに良い影響を与える。

【キーワード】

- ・多様性、居場所づくり

【学習のすすめ方（70分）】

流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	5	1 学習のポイントと話合いのルールの確認をする。 (参加・協力・守秘)	参加：進んで参加、パスもOK。 協力：みんなで協力、答えを導き出す。 守秘：出てきた個人情報、置いて帰る。	◆朗読劇に出演してもら う保護者をあらかじめ 決めておき、劇の準備を してもらう (ナレーター、母、父、 ゆうた、おじいちゃん または、おばあちゃん) ◆「参加・協力・守秘」を 板書しておく
	5	2 アイスブレイク をする。 ・5人グループにな り、自己紹介をす る。	■この頃気になったニュースを紹 介しながら自己紹介をしまし ょう。	
	5	・朗読劇「目玉焼き」 を行う（鑑賞す る）。 ・研修における課題 の確認をする。	■これから参加者の皆さんに朗読 劇してもらいます。それでは、 出演される皆さんは前に出てく ださい。 ■朗読劇に出演してくださった皆 さん、ありがとうございました。 ご自分の席に戻りましょう。	◆ファシリテーター（補 助）は朗読劇に沿って、 以下のように板書する。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「目玉焼き」にかけるものは？ 母：しょうゆ 父：塩 ゆうた：マヨネーズ おじいちゃん（おばあちゃん） ：目玉焼きはきらい</p> </div>		
<p>劇に出てきた家族でも、目玉焼きにかけるものは様々でしたね。 私たちが「ふつうは〇〇だよね。」というように「ふつう」という言葉を用いて様々 な判断をしていることがよくあります。 今日は、私たちが日頃使っている「ふつう」について、人によってとらえ方が違う 場合があるということを考えてみたいと思います。</p>				

<p>展開</p>	<p>3 5</p>	<p>3 事例を読んで話し合い、ワークシートに記入する。</p>	<p>■ 1～5の事例を読んで、気になることを話し合います。(1事例7分程度、ワークシート別添)事例を読み、気になったこと、考えたことを模造紙に記入しましょう。出てきた意見を記録者が記入しましょう。意見をまとめる必要はありません。</p>	<p>◆ 模造紙 (A1に拡大したもの) をグループに配付する ◆ 記録者を決める ◆ 一つの事例を考えたら、次の事例について考えるよう促す ◆ 記録者は1つの事例ごとに交代する ◆ 7分経過したらチャイムを鳴らす等のアナウンスをする ◆ 「共感シール」等配付する</p>
<p>まとめ</p>	<p>5</p>	<p>4 ギャラリーウォークをする。</p> <p>5 元のグループに戻って話し合う。</p>	<p>■ 他のグループのワークシートを見て回しましょう。 ■ 「共感した」考えにはシールを貼りましょう。</p> <p>■ この活動を通して気付いたことを話し合しましょう。</p>	<p>◆ まとめる必要のないことを確認する ◆ アンケートを配布しておく</p>
<p>まとめ</p>	<p>5</p>	<p>6 ファシリテーターがまとめる。</p>	<p>○ 「ふつつ」という言葉の背景を考えていくことで、価値観を多面的に捉えることができる。 ○ 価値観を多面的に捉えていく保護者の姿勢が子どもに影響を与える。多様性を認められる子どもは「いじめ」に向かいにくくなる。 ○ 保護者同士の意思疎通や気付きは、安全や安心につながる。それは、子どもたちにもつながる。等</p> <p>※ 価値観、多様性、居場所づくり 多面的、コミュニケーション、安全・安心 等</p>	<p>◆ 模造紙を掲示 (補助者が参加者に持って立ってもらい) し、ファシリテーターがキーワード等を紹介する ◆ シールが多く貼られた内容も紹介する</p>
<p>まとめ</p>	<p>5</p>	<p>7 ふりかえりシートに記入する。</p>	<p>■ 振り返りシートを記入しましょう。</p>	<p>◆ 参考資料を配付する ・ ストレッサー ・ アンガーマネジメント等</p>

朗読劇 「目玉焼き」

ナレーター これはある家族の日曜日の朝のひとコマです。テレビでは、たまごを使った料理番組が放送されています。

母 「最近はずたまご料理もおしゃれになったわねえ。でも、私は目玉焼きが一番好きだわ。焼きたてに『しょうゆ』をかけて。おいしそう！！」

父 「俺は・・・、ホントは目玉焼きには『塩』がいいんだけどな」

母 「ええ！！知らなかった」

父 「だって、勝手に『しょうゆ』がかかっているから、まあいいかと思って」

母 「ふつう、目玉焼きには『しょうゆ』でしょ！！」

父 「そうやって怒ると思って黙ってたんだよ。俺の普通は『塩』なんだ！」

ナレーター 「しょうゆ」か「塩」かをめぐって両親が険悪なムードになっているところに、ゆうた君が起きてきました。

ゆうた 「朝からうるさいなあ」

母 「ねえ。お父さんが目玉焼きに勝手に『しょうゆ』をかけるお母さんが悪いって言うんだけど、普通『しょうゆ』よね？」

父 「悪いなんて言ってないだろ。ホントは『塩』がいいって言うだけだろ」

母 「ゆうたはもちろん『しょうゆ』よね？」

ゆうた 「俺は『しょうゆ』や『塩』より『マヨネーズ』がいい。」

母、父 「ええ??？」

ナレーター すると隣の部屋にいたおじいちゃん（おばあちゃん）が出てきて…

おじいちゃん 「今まで黙って食べていたが・・・、わしゃ、目玉焼きが嫌いなんじゃ」

3人 「ええ!？」

ナレーター この目玉焼き論争、おじいちゃん（おばあちゃん）のカミングアウトで、終了しました。「普通」ってなんででしょう？ 誰が決めるのでしょうか？
今から一緒に考えてみましょう。

【学習資料】

<ワークシート>

「ふつう、目玉焼きには、『しょうゆ』でしょう!!」	
() グループ	
事 例	気になったこと・考えたこと
1	A君は運動会の日朝、コンビニで弁当を買って登校しました。その様子を見ていたある保護者が私のところにやってきて「ふつうさぁ… 運動会の時くらい弁当を持たせるものだよね… 」と話をしてきました。
2	参観日。子どもたちは思い思いの「将来の夢」について発表しました。授業後の学級懇談会で、となりの保護者が「ふつうに高校まで出て、 ふつうに就職してくれたら、いいんだけど… 」と話をしてきました。
3	避難所で生活をされている方と話をしていたら、「自宅はかなり壊れているけど、ここでは足りない物が多いので何度か家に戻っているんです…。 一日も早くふつうの生活に戻りたいと思っていますが… 」と話された後、言葉が詰まり、会話が続かなくなりました。
4	友だちのお母さんから。「今度の担任ってどう？前の学校で学級崩壊しちゃって大変だったらしいけど、大丈夫かな…。 ふつうさぁ…そういう先生をいきなり担任に充てるものなのかしら… 」といったメールが回ってきました。
5	休日、具材をしっかり買い込んで、腕によりを掛けてラーメンを作り家族に振る舞いました。あまりにも息子の反応がないので、「どうだ、うまいか？」と聞くと、「 ふつうにうまいで! 」と返してきただけでそれ以上の反応はなく少し寂しくなりました。

気づいたことを書きましょう。

いじめが起きにくい学校風土・学級風土

いじめを減らしていく上で成果を上げているのが、「いじめを生まない」という未然防止の発想に立った取組です。そうした未然防止の取組の一つに、多くの児童生徒がいじめの被害のみならず、加害にも巻き込まれている事実立ち、ささいな行為が深刻ないじめへと簡単に燃え広がらない潤いに満ちた風土をつくりだす、“居場所づくり”の発想の取組があります。

“どんなささいな予兆も見逃さず対処する”という早期発見・早期対応の姿勢も大切ですが、いじめ行為の多くは「目に見えにくい」こと、被害者も加害者も短期間に大きく入れ替わることを考えれば、そこに限界があるのも事実です。そこで、いじめの背景にはストレスやその原因となる要因（ストレス）等が存在することに着目し、それらの改善を図ることで、きっかけとなるトラブルを減らしたり、エスカレートを防いだりすることで未然防止を図ります。

いじめ加害に影響する3 要因

児童生徒をいじめ加害に向かわせる要因として大きいのは、「友人ストレス」「競争的価値観」「不機嫌怒りストレス」の三つ。それらの要因が高まると、加害に向かいやすくなる（リスクが高まる）。

ただし、そうしたリスク要因が実際にいじめ加害に結びつくには、偶発的な要因が必要。幾らストレスが高く、それを発散したいと感じたとしても、適当な相手（自分が勝てそうで、都合の良い口実・きっかけがある等）と、適当な方法（自分にとっては簡単で、大人に見つかりにくく、見つかっても言い逃れができそう等）がなければ、加害行為には及ばない。

とは言え、三つの要因の改善が、いじめ発生のリスクを減らすことは間違いないと考えられます。

“居場所づくり”でいじめを減らす

誰もが巻き込まれるいじめの場合、一部の児童生徒を想定した取組よりも全員を対象とした取組が合理的かつ効果的です。児童生徒が安心できる自己存在感や充実感を感じられる、そんな場所を提供できる授業づくりや集団づくりが、未然防止になるのです。

三つの要因のうち、(過度な)「競争的価値観」や「不機嫌怒りストレス」を緩和する上で効果的と考えられるのが、授業や行事の中で、どの児童生徒も落ち着ける場所をつくりだす“居場所づくり”の考え方です。「競争的価値観」や「不機嫌怒りストレス」は、学校の中だけで生み出されているわけではありません。家庭や社会の影響の方が強い場合も少なくないでしょう。しかし、授業中に嘲笑されたり、行事の際にからかわれたりする、といったことが放置されていないでしょうか？授業についていけなかったり、行事に参加しないで別なことをしていたりする児童生徒はいないでしょうか？そこから見直すことが求められています。

【12】

テーマ「自尊感情」

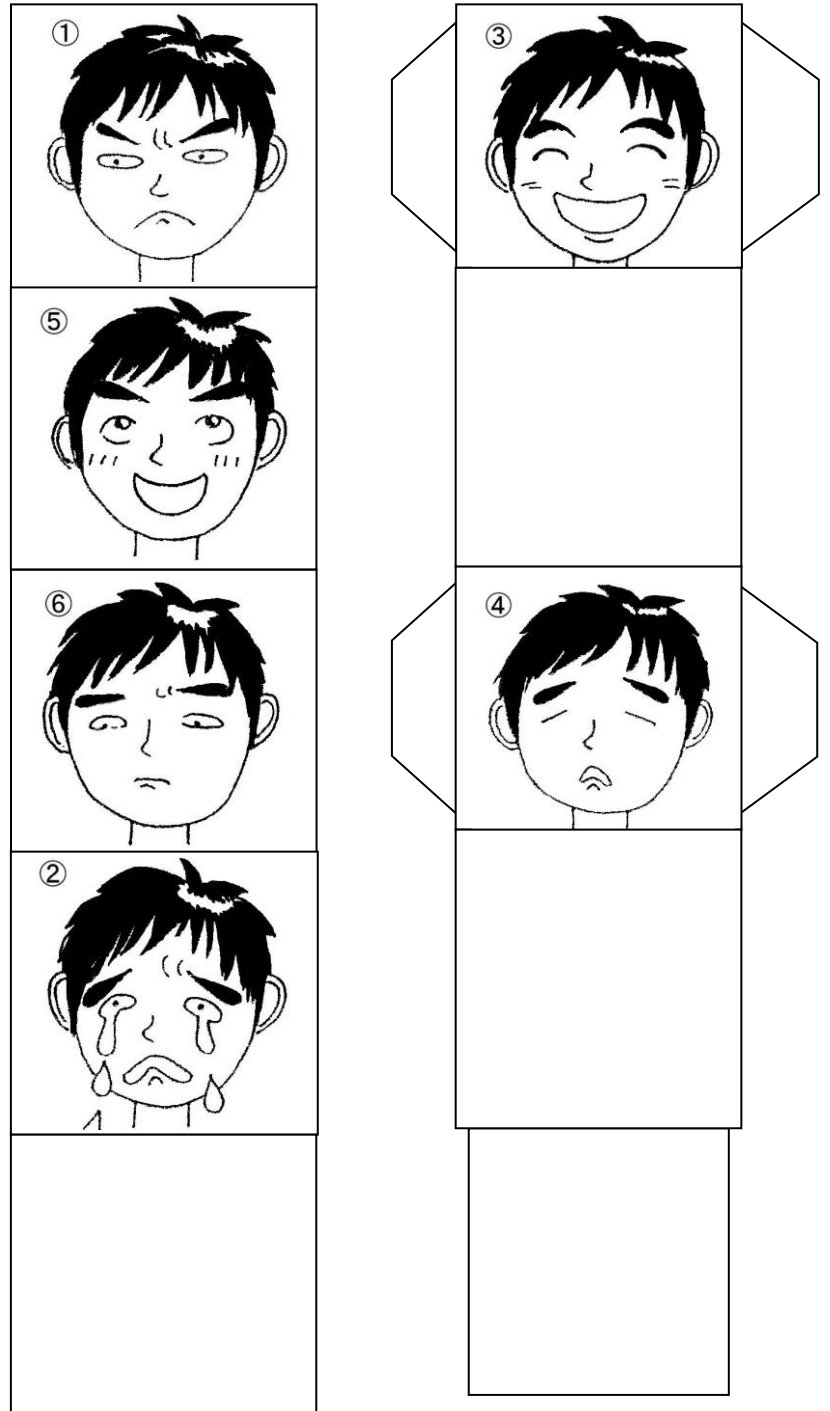
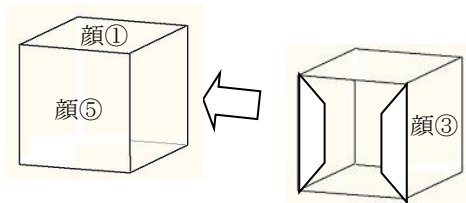
タイトル「子どもの気持ちに向き合う上で大切にしたいこと」

～いじめをしない子どもを育てる『2つの自信』～

【学習資料】きもちサイコロ

<つくりかた>

- ① 白い面をのりしろにして四角の輪を2つ作る。
- ② 顔③のある四角の輪の白い面をのりしろにして、顔①のある四角の輪の内側に入れ、のりづけする。



【学習のポイント】

○子どもの気持ちへの向き合い方を考えることをとおして、子どもの自信を育てる上での家庭ならではの役割について理解を深める。

【キーワード】

○2つの自信〔在ること (Being) の自信と成すこと (Doing) の自信〕

【すすめ方（80分）】

流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	3	1 本研修会のねらいや進め方の説明をする ・話合いのルール確認	■「まじめなおしゃべり」という感覚で、肩の力を抜いて参加してください（全体の前で意見発表する場面はありません）	◆「参加・尊重・守秘」を板書しておく
	5	2 アイスブレイキング (参加者の実態によっては省略してよい)	■子どもの好きな食べ物を紹介しながら自己紹介しましょう	◆ファシリテーターも自己紹介する
展開1	2	3 学習の見通しを持つ	■自分に自信のある子どもはいじめをしにくいだらうという仮説に立ち、自分に自信のある子どもの育成に向け、子どもの気持ちに向き合う際に大切にすべきポイントについて考えます	◆エピソードと問いの例を配布し、先行事例を掲示する ◆A3用紙にエピソードを書き込み模造紙の中央に貼る
展開2	6	4 子どもの気持ちにかかわる体験を交流する	■きもちさいころをふり、出た面の気持ちに、実際に子どもがなったときのエピソードを紹介し合いましょう	
	12	5 みんなで考えたいエピソードをつくり、問いを立てる	■出されたエピソードを参考にしながら、①みんなで考えたい、子どもの気持ちにかかわるエピソードをつくり、②それにかかわる問いを立てましょう	
	2	6 みつばちワクワクカフェの進め方を確認する	◆ファシリテーターが以下を説明する	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ① みつばち役になる順番を決める ② みつばち役はワークシートを持って他のグループに移動し、エピソードと問いを説明し、話合いで出された意見をワークシートの余白に書き込んでもらう ③ みつばち役がグループに戻り、もらった意見を報告する ④ みつばち役を交代し②③を繰り返す（グループ数・進行具合に応じてセット数を決める） ⑤ 終了後、他のグループのワークシートを見てまわり、なるほどと思う意見に「いいねシール」を貼る </div>				
	10	7 みつばちワクワクカフェ第1セット	■みつばち役が持ってきたエピソードと問いについて話し合いましょう（9分） ■グループに戻って報告しましょう（1分）	
	10	8 みつばちワクワクカフェ第2セット（9分+1分）	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ・みつばち役を交代しながら繰り返す ・意見の出具合を見ながら時間を調整する </div>	
	10	9 みつばちワクワクカフェ第3セット（9分+1分）		

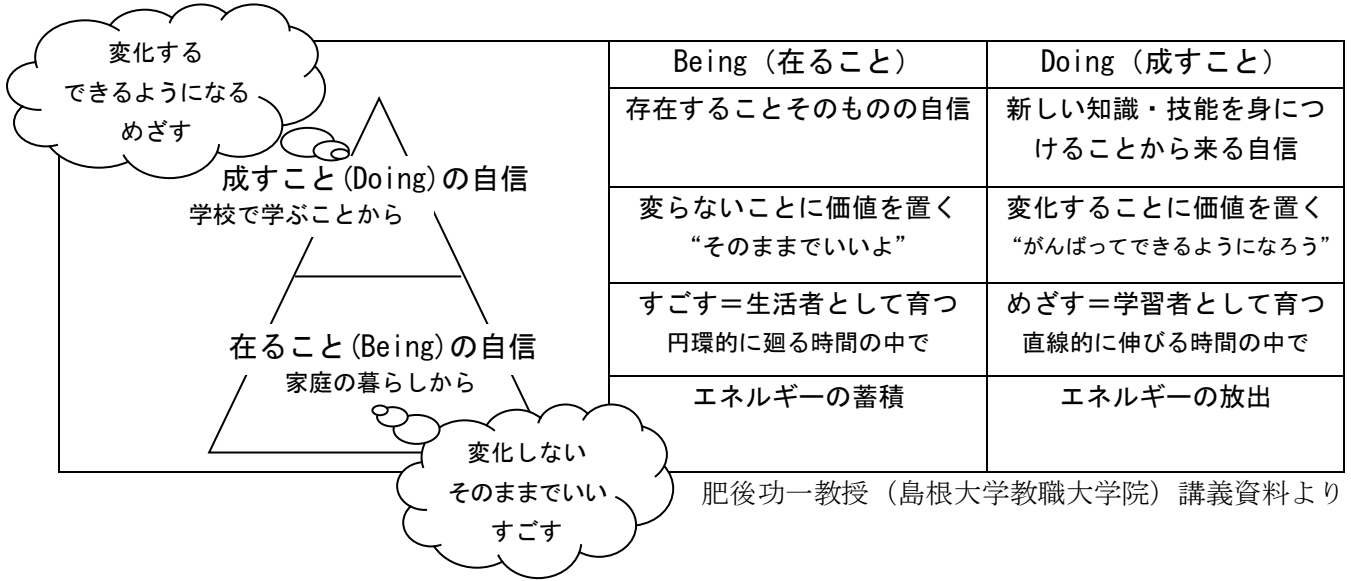
①話し合いで出された意見を書き込んでいく ②話し合いが終わったら自グループの名を書き、花びら状に囲む ③最終セットが終わった時に花が完成するようにする				
展開3	8	10 ギャラリーウォーク	■他のグループのワークシートを見てまわり、なるほどと思う意見に「いいねシール」を貼りましょう	◆「いいねシール」（ドットシール、付箋等）を配布する
まとめ	3	11 振り返りをグループで共有する（3分）	■今日の学習を通して子どもの気持ちに向き合う上で大切にしたいと思ったことを振り返りましょう	◆グループ内で思いや感想などを共有する
	9	12 ファシリテーターよりまとめ	◆いじめをしない子どもを育てるには、在ること(Being)の自信と成すこと(Doing)の自信を育むことが重要だが、このうち在ること(Being)の自信を育むことに家庭ならではの役割がある 等	◆ファシリテーターの体験談を盛り込むと効果的 ◆資料「2つの自信」を配布する

<エピソードと問いの例>

【きもち②】
 雨がしとつく夕方。今日は米子でプロ野球のある日です。お父さんと観戦に行く約束をしているイチロー（当時小4）はお父さんの帰りを今か今かと待っています。
 父：ただいまー
 イチロー：お帰りなさいー！ お父さん 早く行こうよ！ 早くう！
 父：はいはい ちょっと待っててね しかし空模様が心配だなあ…
 イチローとお父さんは駅まで歩いて行きました。駅の改札で、お父さんは駅員さんにプロ野球の試合があるかどうか聞きました。駅員さんは試合が中止になったことをお父さんに伝えました。
 駅からの帰り道、ガマンしきれなくなったイチローは、大声で泣き始めました。

問い「お父さんはどうすればよいでしょう」

<資料：2つの自信>



肥後功一教授（島根大学教職大学院）講義資料より

平成28年度ブラッシュアップ版
地域と共に創るとっとり人権教育事業で
開発した人権教育プログラム綴
(社会教育編)

平成30年12月

発行

鳥取県教育委員会事務局人権教育課

〒680-8570 鳥取市東町1丁目271番地

電話 (0857) 26-7534 (直通)

ファクシミリ (0857) 26-8176